

## 第1回幼保小連携カリキュラム開発委員会の概要

- 1 日 時 平成25年5月27日（月）  
午後2時から4時30分
- 2 会 場 中部総合事務所 B棟202会議室他
- 3 参加者 委員12名（欠席：松重委員・高垣委員）
- 4 協議の概要

### 3つの観点と10の視点について（各年齢のカリキュラムの様式（案）参照）

3つの 観点	「生活」 健康な体づくり	「人とのかかわり」 豊かな人間性づくり	「興味・関心」 学びの基礎づくり
10の 視点	食育・運動・安全 生活習慣	自己発揮・協同性 きまり	意欲・探究心 表現

#### 《主な意見》

- ・観点と視点はこのままでよい。
  - ・年齢部会で話し合っていく中で、その年齢にふさわしいめざす子どもの姿を入れていってはどうか。

### カリキュラムの様式について

- 0歳児・・・月齢で示す。
- 1・2歳児・・・年間（期）を通して考える。期の間の線を取る。
- 3歳以上児・・・期に分けて示す。

\*全年齢で同じものではなく、その年齢の子どもの発達に合った様式はどんなものなのかを考えて使用していくことが重要と確認。

#### 《主な意見》

- ・各年齢の最終のめざす姿を記入したい。一人一人の発達のスピードを考慮して「おおむね」という言葉や考え方も入れてほしい。
- ・保育指針・保育課程・年計と幼保小連携カリキュラムにどんなつながりがあるのか明確にしたい。
- ・遊びきる子どもと指針・要領に矛盾はない。生涯を見据えて見通しをもつことが重要となる。

5 講 義 「『遊びきる子ども』と『幼保小連携カリキュラム』をつなぐ」

鳥取大学地域学部 塩野谷 斉 教授

- 「遊びきる」ことが小学校につながる
- 「遊びきる」ことは自己発揮である
- 子どもにとっての遊びとは
- 「きまり～たのしいね～」(案：カリキュラムより)  
遊びからルール必要性を根付かせて
- 生涯発達の観点から

7 年齢部会より (まとめ)

- ・ 1歳児は、視点の「安全」を「睡眠」と考える。生活リズムの確立こそが元気いっばいの子どもの育成につながる。
- ・ めざす子どもの姿として表すのは、大まかな姿でよいのではないか。
- ・ 県として示すのは、「遊びきる子ども」につながる姿がよい。
- ・ 現場では活動事例が参考となる。
- ・ 接続期では、4．5月は学校生活になれる時期、6．7月は学習規律を身につける時期としてとらえる。
- ・ 接続期では、生活習慣の視点を「生活習慣」と「学習規律」の2つとする。